

## 主体的な活動としての「経験」はキャリア教育の見直し？

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。  
\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

No292

# 経験とは実践から立ち上がる 主体的な活動—「体験」との違い—

—  
溝上慎一

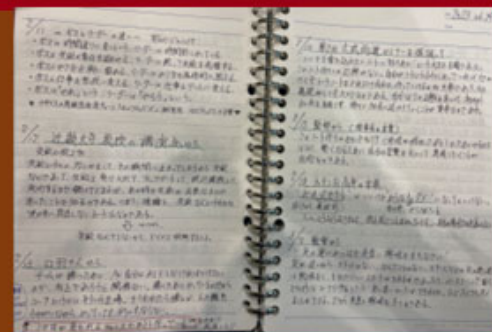
(桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)

溝上慎一の教育論「動画チャンネル」

**No236**

桐蔭横浜大学文部両道セミナーより

# なぜ“言葉”が“思考力” を高めるのか1



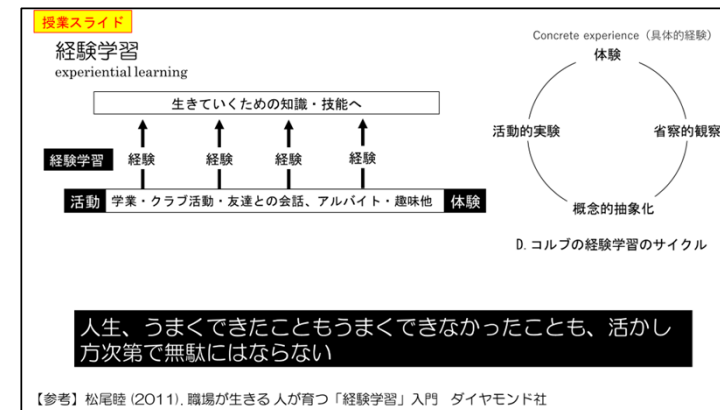
溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

# デューイの経験論と繋げて

吉村文男・竹山理・日下耕三 (2014)

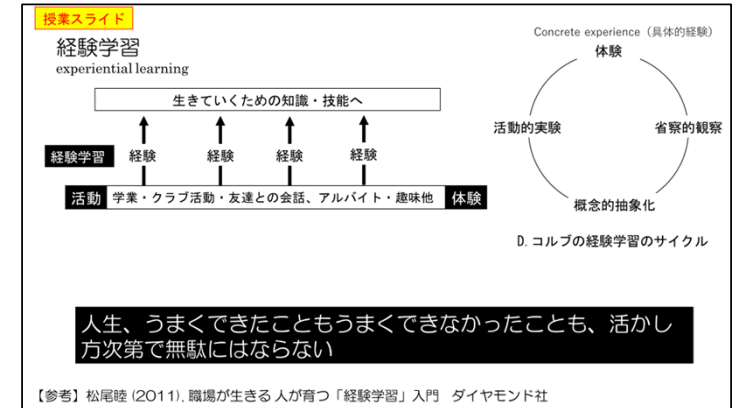
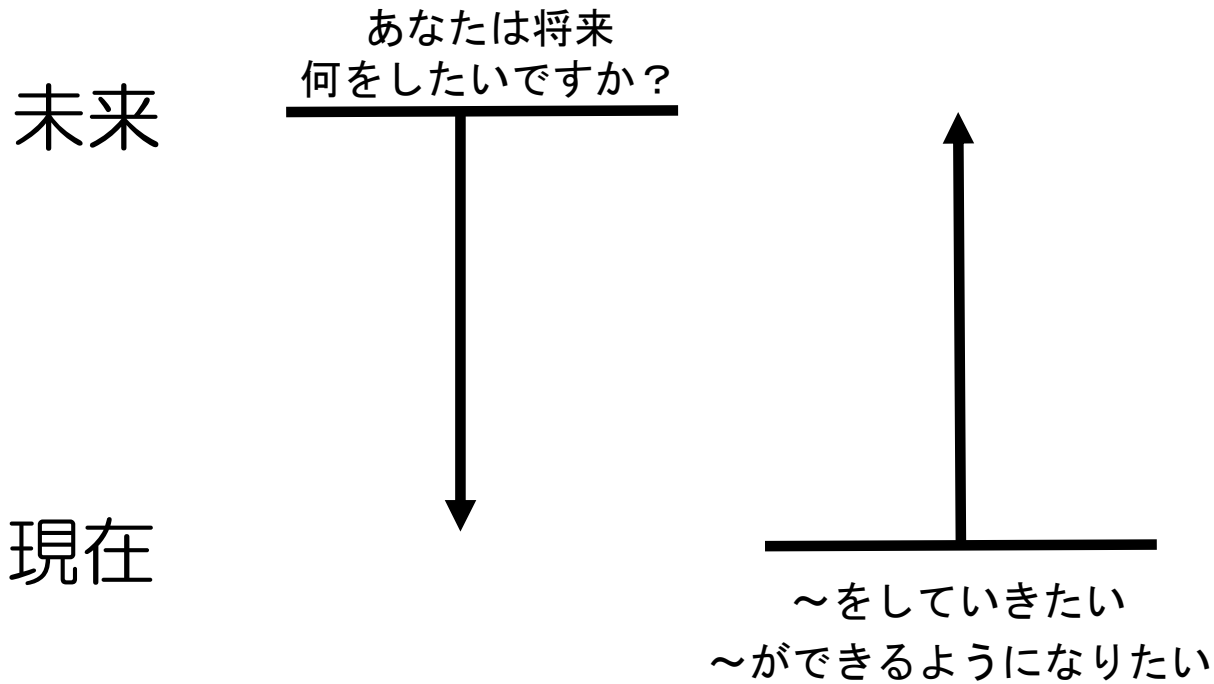
「デューイによれば、「すべての経験は、すでに過ぎ去った経験から何らかのものを受け取るだけでなく、これからやって来る経験の質を何らかの仕方で修正する」のであり、これを「経験の連続性の原理」と呼んでいる。」

No292のスライドより



> 吉村文男・竹山理・日下耕三 (2014). デューイの教育哲学における「経験」と今日の大学教育 奈良産業大学地域公共学総合研究所年報, 4, 85-108.

# 現在から立ち上げる未来「キャリア教育」へ



No236 桐蔭横浜大学文部両道セミナーより

なぜ“言葉”が“思考力”  
を高めるのか1

溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

ご視聴有難うございました  
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。  
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

